

PLS210 国際関係論

2年 1,2クォーター

担当教員 細谷 龍平

授業形態 講義, 演習

単位数 2

曜日・時限 月曜日・5時限

授業概要

国際学の入門コースである本科目では、国際関係の多面的な諸相を、国際政治史、国際法、外交、国際機構、国際経済、国際関係理論、及びグローバル化の各アプローチから取り上げ、それぞれについて、概略紹介の講義に続き、具体的な論題を設けてディベートを行う。それを通して、後期に続く科目「国際政策」での事例研究の土台となる基礎的知識と思考力を養うとともに、国際と地域とのつながりについても考える。

到達目標

- (1) 国際関係を、様々なアプローチから概観することを通して、全般的な知識を得る。
- (2) 国際関係の多面的な仕組みと、そこに働く原理についての理解を身につける。
- (3) 国際関係の視点から地域を見る姿勢を養う。

先修科目

国際地域概論

教科書・参考資料等

- (1) 岡義武 「国際政治史」 岩波現代文庫 2009年
- (2) 横田洋三編 「国際法入門」 有斐閣アルマ 2005年
- (3) 細谷雄一 「外交」 有斐閣 Insight 2007年
- (4) 最上敏樹 「国際機構論」 東海大学出版会 2006年
- (5) 吉川直人・野口和彦編 「国際関係理論」 勁草書房 2006年
- (6) 今井隆吉・細谷龍平編 「新しい世界像」 世界平和研究所 1998年

授業の方法

学際的な分野である国際関係論の幾つかの主要なアプローチに沿って、概略を紹介する講義に続いて、ディベートのための具体的な論題を提起する。学生は、次の回までに配布資料を読み、その他の情報源からも自主的に調査して準備する。ディベートは、論題の性格や人数に応じてその都度様々な形式で試みる。通常は数名ずつの2チームに分かれて議論を競い合い、残りの学生はその勝敗を裁定する。

成績評価

ディベートへの参加、貢献度。チームとしてのプレゼンテーション。最終回のあと各人レポートを提出。

成績

- 70% ディベートへの参加
30% レポート

授業スケジュール

- 第1回： 科目全体の紹介を行う中で、国際関係の多面性と、その諸相を探求する様々なアプローチを概観する。
- 第2回： 第1アプローチ「国際政治史」の概略（世界史の各時代を通じた国際政治の構造とそのあり方の変遷）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第3回：「国際政治史」についてのディベート

第4回：第2アプローチ「国際法」の概略（主権国家の確立と、国際関係を律する国際法の形成・発展の経緯、及び現代国際社会における国際法の体系と役割）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第5回：「国際法」についてのディベート

第6回：第3アプローチ「外交」の概略（国家が国益を増進するための対外政策と国際交渉を含めた外交の歴史の変遷と、現代における外交のあり方）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第7回：「外交」についてのディベート

第8回：第4アプローチ「国際機構」の概略（国際社会の諸問題に対処するために国家間の合意で作られた組織体の歴史の変遷、及びその現在の全体像と課題）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第9回：「国際機構」についてのディベート

第10回：第5アプローチ「国際経済」の概略（国際貿易・投資、国際金融など、国際間の種々の経済取引の実態と、仕組み、及び関連する国際協定と国際機関）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第11回：「国際経済」についてのディベート

第12回：第6アプローチ「国際関係理論」の概略（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム、世界システム論などの理論の系譜）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第13回：「国際関係理論」についてのディベート

第14回：第7アプローチ「グローバル化」の概略（多面的な国際関係の中でのグローバル化の正しい捉え方、及び国際社会と地域との関係に踏み込むグローバル化の理論）を講義し、ディベートの論題を提起する。

第15回：「グローバル化」についてのディベートと全体総括。

事前・事後学習

事前には、適宜参考資料などを読んでの予習を行う。講義の後には、次の回のディベートに備えて、配布資料を読み、併せてその他の調査を自主的に行う。